

## 第一学期終業式式辞

令和6年7月19日

### ※ あっという間の一学期・・・始めたら始まり、何か始めることができましたか

あっという間の一学期だったと感じています。梅雨にもかかわらず全国的に暑い天候が続いたと思えば、続く雨で土砂災害が起きる地域もあり、高校野球の試合が順延しています。野球部の皆さんは、早く試合がしたいと明後日の初戦を控え、気持ちが高まっていると思います。全校で応援する機運を高めたいと思っています。心から健闘を祈ります。

一学期の最初に始めたら始まり、よーいはじめということ述べましたが、何か始めることができましたか。県総体には総勢100名が出場し、水泳競技は四国大会に出場ができましたが、県の壁に屈した競技が多かったです。一部、3年生が次の大会に向けてまだ部活動を続けていますが、1・2年生の新チームになったところも多いと思います。次の試合、大会に向けて夏休み練習に励んでください。懇談会も始まって、成績や進路のことを考える時期でもあります。夏休みも何か始めるには最適の時だと思います。目標を持って高校生活を送るといふ何気ないことがいかにすばらしいことかということをとときどき考えることがあります。

### ※ 君たちはやろうと思えばなんでもできる・・・すばらしいこと

私の甥っ子に萩田大貴君という野球好きの少年がいました。生きていれば二十歳です。大貴くんは、静岡県立静岡東高校に入学し、野球部に入部しました。私の妻の妹の子供です。二年前の夏、静岡県のテレビ局で静岡東高校野球部の特集が組まれました。選手は、ベンチに大貴君の遺影を置き、大貴君とともに戦った姿が、「ともに白球を追いかけた三年生が大貴君とともに戦う最後の夏」として紹介されました。一回戦はシーソーゲームを制して勝利を収め、お父さんは「みんなの中にいるんですかね。みんなと一緒にやっているんですかね。」と涙ながらに答えていました。

思い返せば、彼が高校に入学したばかりの頃、コロナの影響で年度当初臨時休業となった年です。6月になってやっと学校生活が戻りつつあった頃、大貴君は体の不調を訴え入院をしました。入学してやっと普通に練習が始まった頃の出来事です。肺と肺の間の神経に絡みつくようにがんが見つかりました。前縦隔胚細胞腫瘍というがん、症例としては、世界的に珍しく、治療も難しいがんでした。今細胞は京都大学で研究のため保管されているくらい難しい症例でした。どんなにつらくて苦しい治療も弱音を吐かずに堪えましたが、大貴君は高校一年生の夏を病院のベッドで過ごし、9月にこの世を去りました。自宅に一週間ほど戻ると聞き、今大ちゃんに会わなければ絶対後悔すると静岡へ向かいました。途中県外の大学に通っていた私の長女と落ち合い、萩田家へ向かいました。ちょうど病院から帰宅したばかりで、きれいな顔にしてもらい、髪も整え安らかに横たわっていました。私と娘は大泣きでした。大ちゃんの母親から、うちの娘に「いっしょに成長できなくてごめんね。」という言葉。大貴君のお母さんが「大貴の高校生になった時にどんな高校生活を送りたいですか?」の質問に友達と毎日楽しい高校生活を送りたいって書いてあった。七夕の願いは野球がしたいだった。みんなはやろうと思えばできるということを伝えて下さい。」とおっしゃっていました。

皆さんはこれから夏休みを迎えます。日曜日は野球の初戦がありますし、思いっきり声を出しプレイすることができます。ほかの部活動も精一杯プレイしたり演奏したり研究したりできます。三年生は将来のことを真剣に考える時期です。一、二年生も課題や部活動に思う存分励むことができます。思ったことが何でもできるという幸せが皆さんにはあるのです。

今を思いっきり過ごそうという当たり前のことをお願いして、終業式の式辞とします。